

## コロナ禍における成績評価方法について

小島 秀夫

コロナ禍により、対面での定期試験が実施できない状況下において、適正な成績評価を行うべく、これまでに実施したリアルタイムでのオンライン試験方法を紹介する。当方からは、小・中規模のオンライン試験として、基本法学概論ならびに法学特殊講義（刑法判例講読）にて実施した試験の概要と成績評価方法を報告した。

2年次開講必修科目の基本法学概論 A クラスでは、manaba の小テスト機能を用いて小テストと期末試験を行い、それらの合計点で成績を評価した。小テストは毎週実施し、例年通りの内容（約 20 問）を約 15 分の解答制限時間内に提出してもらった後、教員が手動で採点して返却し、間違えた箇所を直して再提出させる作業を 2 回まで繰り返した。解答時間は、問題数から 5 分引いた時間を目安に設定した。対面での試験より平均点が 5% ほど高く、オンライン入力でも漢字の間違いが見られる点は興味深い。間違い直しの際、「課題を再提出させる」ボタンをクリックすると、解答した内容が全て消えるため、どの問題を間違えたのか、別途個別に受講生へ連絡しなければならない点は、システム上の欠陥ともいえよう。期末試験は、manaba の小テスト機能では 100 問までしか作成できないため、100 問出題し、解答時間 60 分・提出受付時間 75 分・持ち込み全て可、という条件の下で実施した。自動採点機能を使用し、提出受付終了時に採点結果と正解を公開した後、手動で採点をチェックした。S 評価・A 評価・B 評価の割合は、例年通りとなった。

3・4 年次開講選択必修科目の法学特殊講義（刑法判例講読）では、manaba のレポート機能を用いて中間試験と期末試験を行い、期末試験の得点のみで成績を評価した。中間試験は、あくまで受講生がオンライン試験に慣れる目的で実施したに過ぎない。manaba に登録されている履修者と実際の履修者に相違が見られたため、DB ポータルの講義情報にアップした Word ファイルの試験問題を受講生が各自ダウンロードし、答案については、ファイル名を「期末試験 + 学籍番号 + 氏名」とするよう指定したうえで、manaba のレポート機能を通じて提出してもらった。出題は事例問題 1 題のみ、解答時間は 60 分・受付時間は 65 分に制限し、試験終了後、回線トラブルによる未提出者がいないか確認するため Meet や Zoom 上で点呼をとった。答案の出来具合は、持ち込み不可としている通常の対面試験より若干良いが、S 評価から C 評価まで適切な割合で成績評価することができた。キーボードを使用して長文を入力する時間が思った以上にかかる、との意見が受講生から

出されたことは、特筆すべき点であろう。

報告後の質疑応答では、問題の解答時間をもう少し長く設定した方が良いのではないか、提出させる際のファイル形式を指定した方が望ましいのではないか、といった有益な意見が出され、今後のオンライン試験とその成績評価方法について検討を深めることができた。